



岐阜市ゼロカーボンシティ宣言

2050年二酸化炭素排出実質ゼロをめざして

岐阜市の脱炭素について

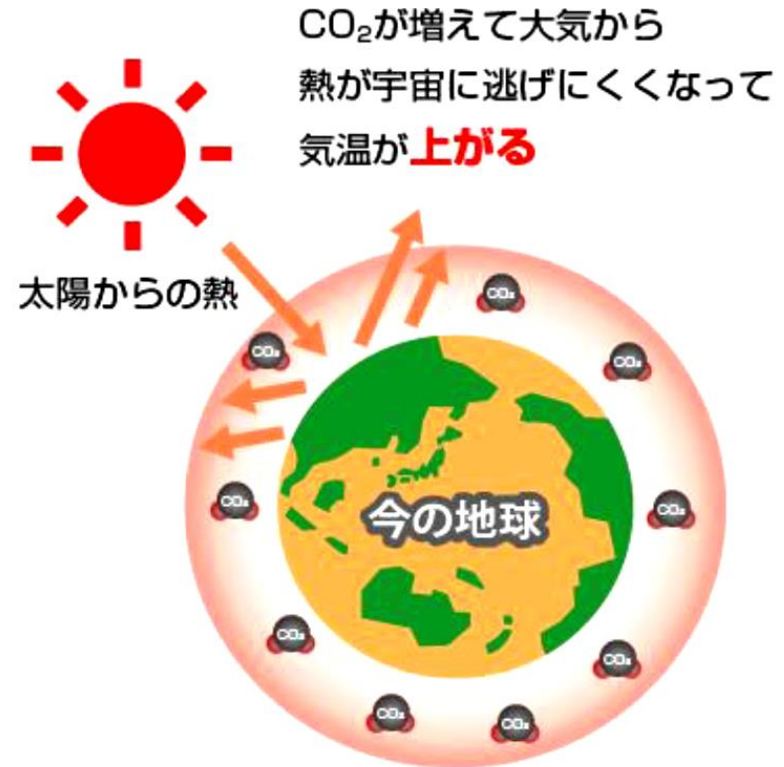
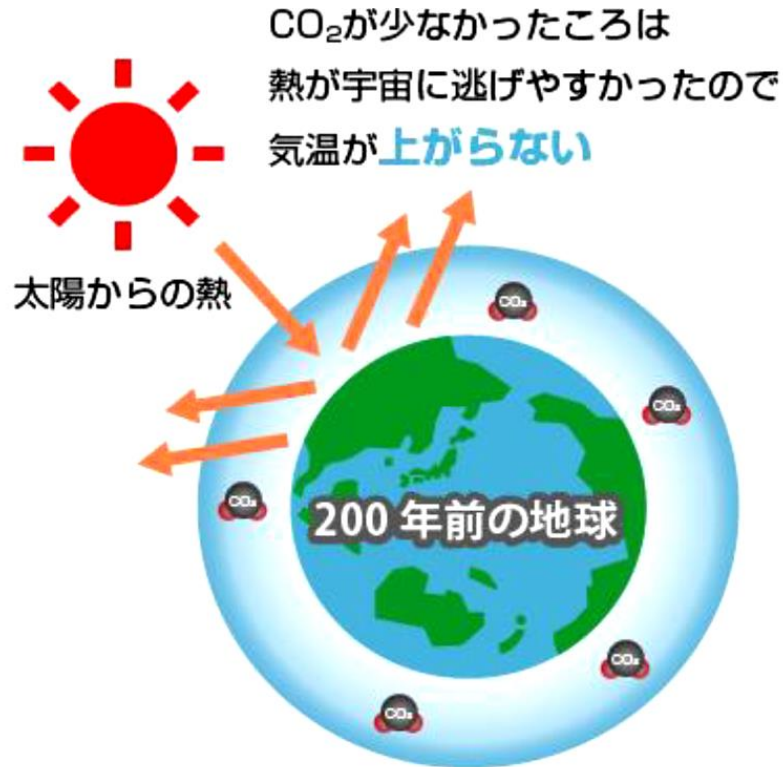
～岐阜市ゼロカーボンシティ宣言の目指すもの～

令和7年10月4日
岐阜市ゼロカーボンシティ推進課

0.この会議 について



地球温暖化は、なぜ起こるのか？



- 地球の表面は、**二酸化炭素**や**メタン**などの「**温室効果ガス**」に覆われており、地表面から放射される熱が宇宙空間に逃げていくことを防ぐことによって、**適度な温度**に保たれている。
- 産業革命以降、石炭、石油などの**化石燃料の使用量の拡大**などにより、二酸化炭素が大量に大気中に放出されている。
- 熱の吸収量と宇宙に逃げていく量の**バランスが変化**し、**吸収量が多くなる**ことで**地球全体の気温が上昇**している。

ゼロカーボン市民懇談会について

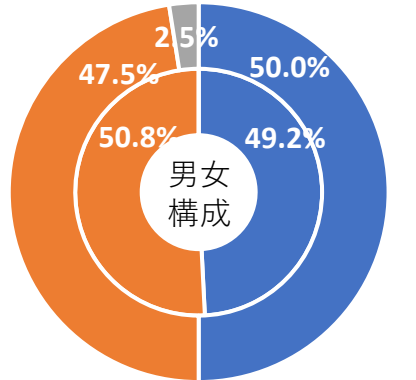
- このゼロカーボン市民懇談会は、全国各地で実施されている「気候市民会議」の「岐阜市版」気候市民会議です。
- ・ 特徴として、
 1. **参加者の構成：**
社会全体の縮図となるように一般から無作為選出された市民が参加します。
 2. **情報の提供：**
多様な角度からバランスのとれた情報提供を受けます。
 3. **熟慮と対話：**
気候変動対策について参加者同士でじっくりと話し合います。
 4. **提言の実施：**
取りまとめた結果を、政策決定や、さらなる取組に向けた議論などに活用します。

参考：手引き「気候市民会議の企画」編 オール東京62気候変動対策研究会

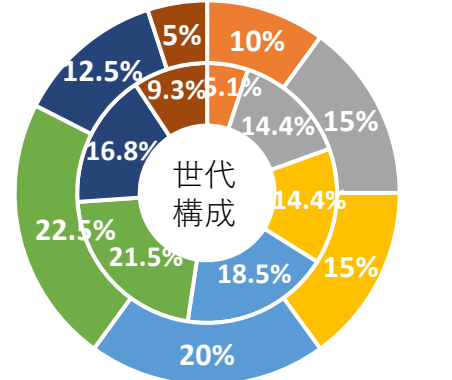
【会議の参加者】

市全域と参加者の
構成比較

- ・内側：市全域
- ・外側：会議参加者



■ 男性 ■ 女性 ■ 回答しない



■ 16-19 ■ 20-29 ■ 30-39 ■ 40-49
■ 50-59 ■ 60-69 ■ 70-74

1.本市の 現状



削減目標の設定

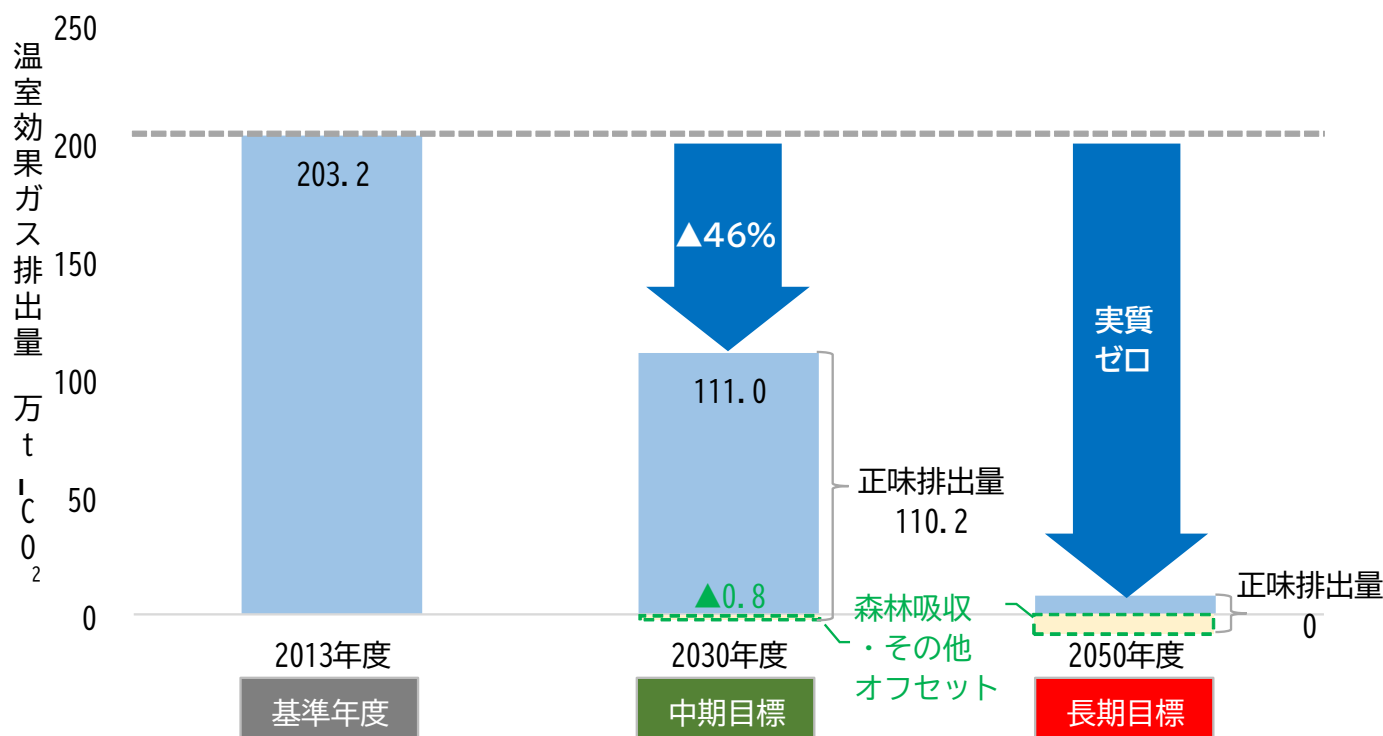
計画期間・目標年度

■中期目標

2030年度における温室効果ガス排出量を、**2013年度比で46%削減**

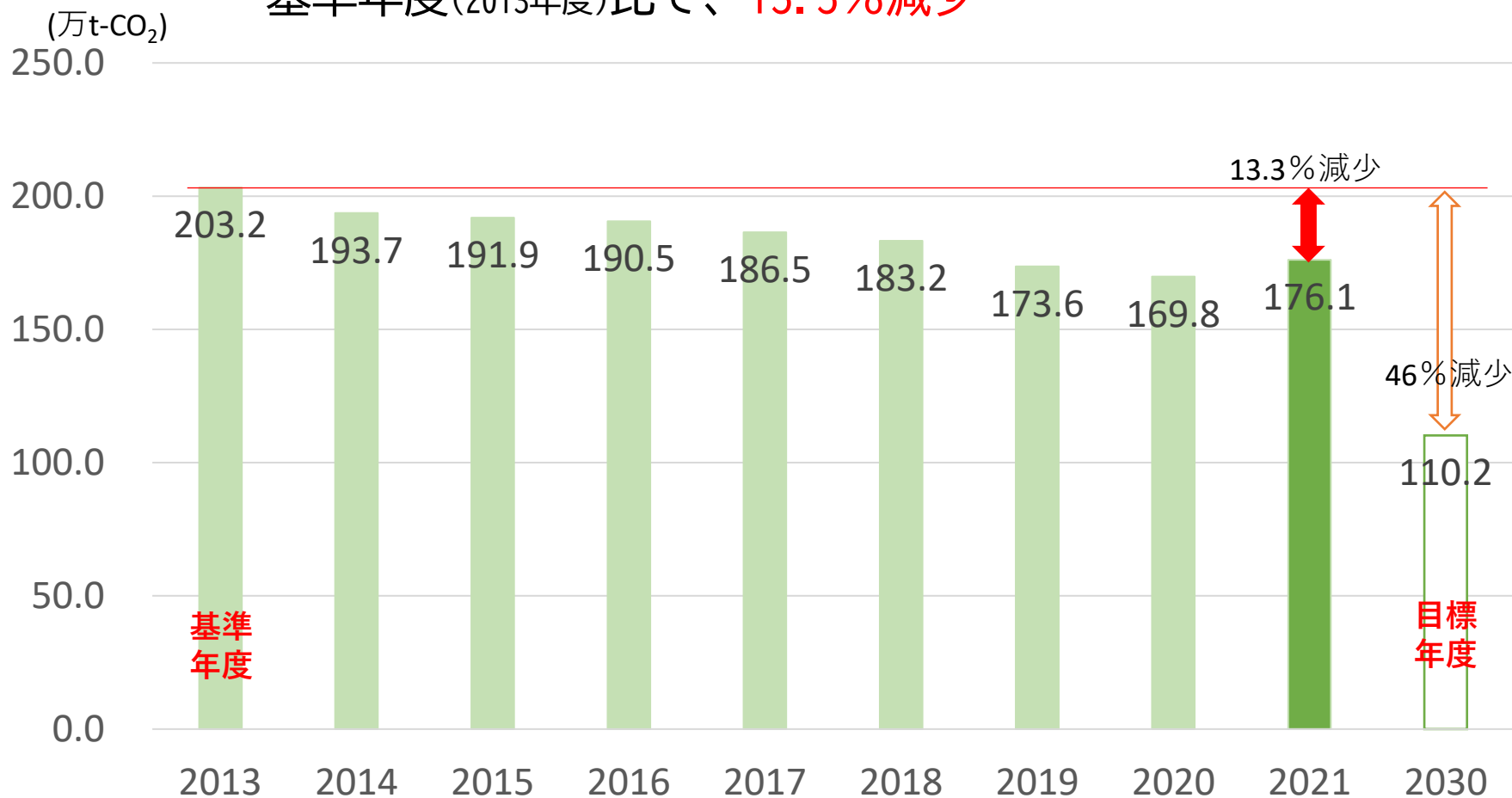
■長期目標

2050年度における温室効果ガス排出量を、**実質ゼロ**



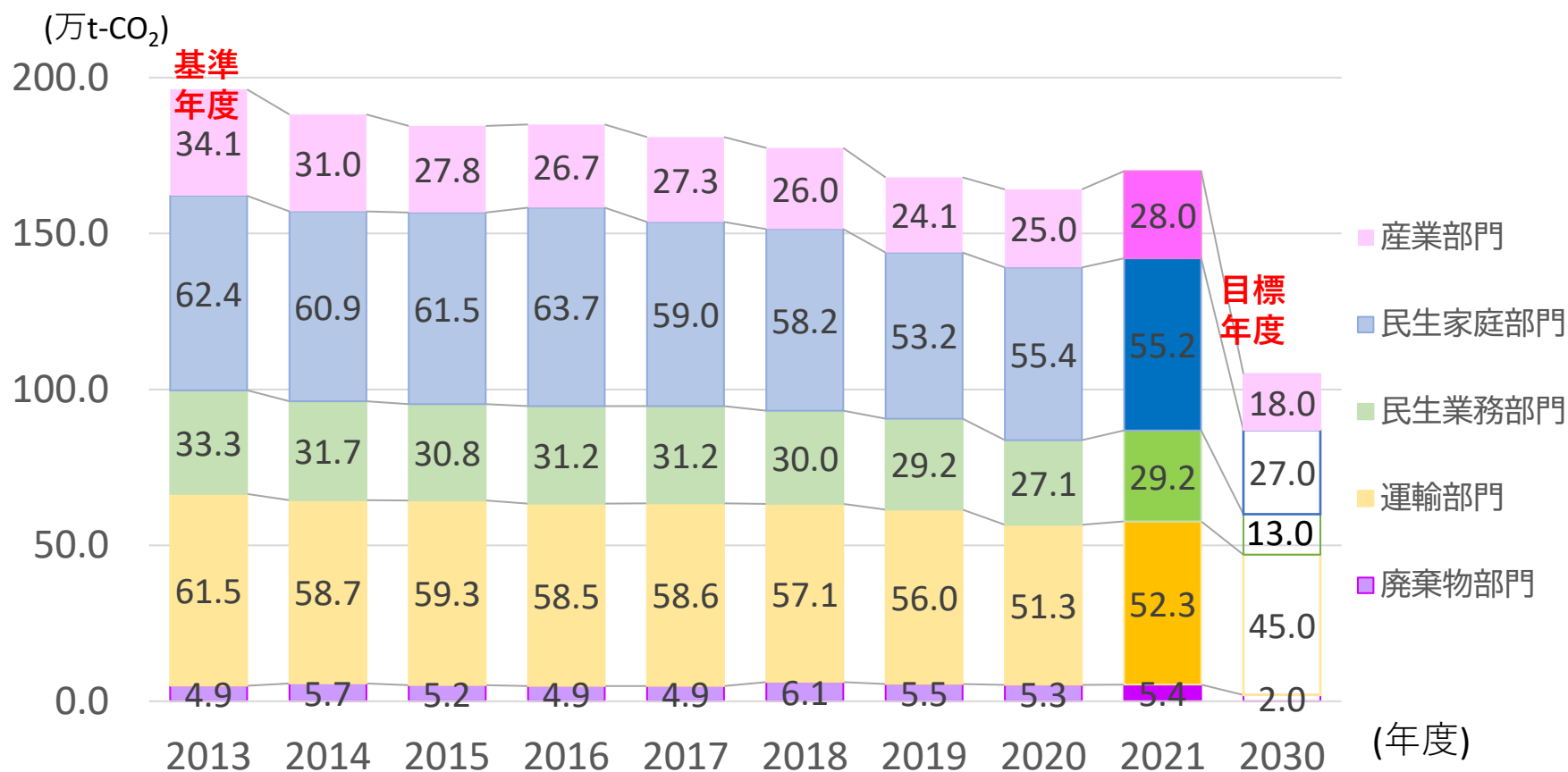
(1) 本市の温室効果ガス排出量

- 総排出量は、2013年度以降、**減少傾向**
- 直近2021年度の排出量は、176.1万t-CO₂で、
基準年度(2013年度)比で、**13.3%減少**



(2) 本市の二酸化炭素排出量の特徴

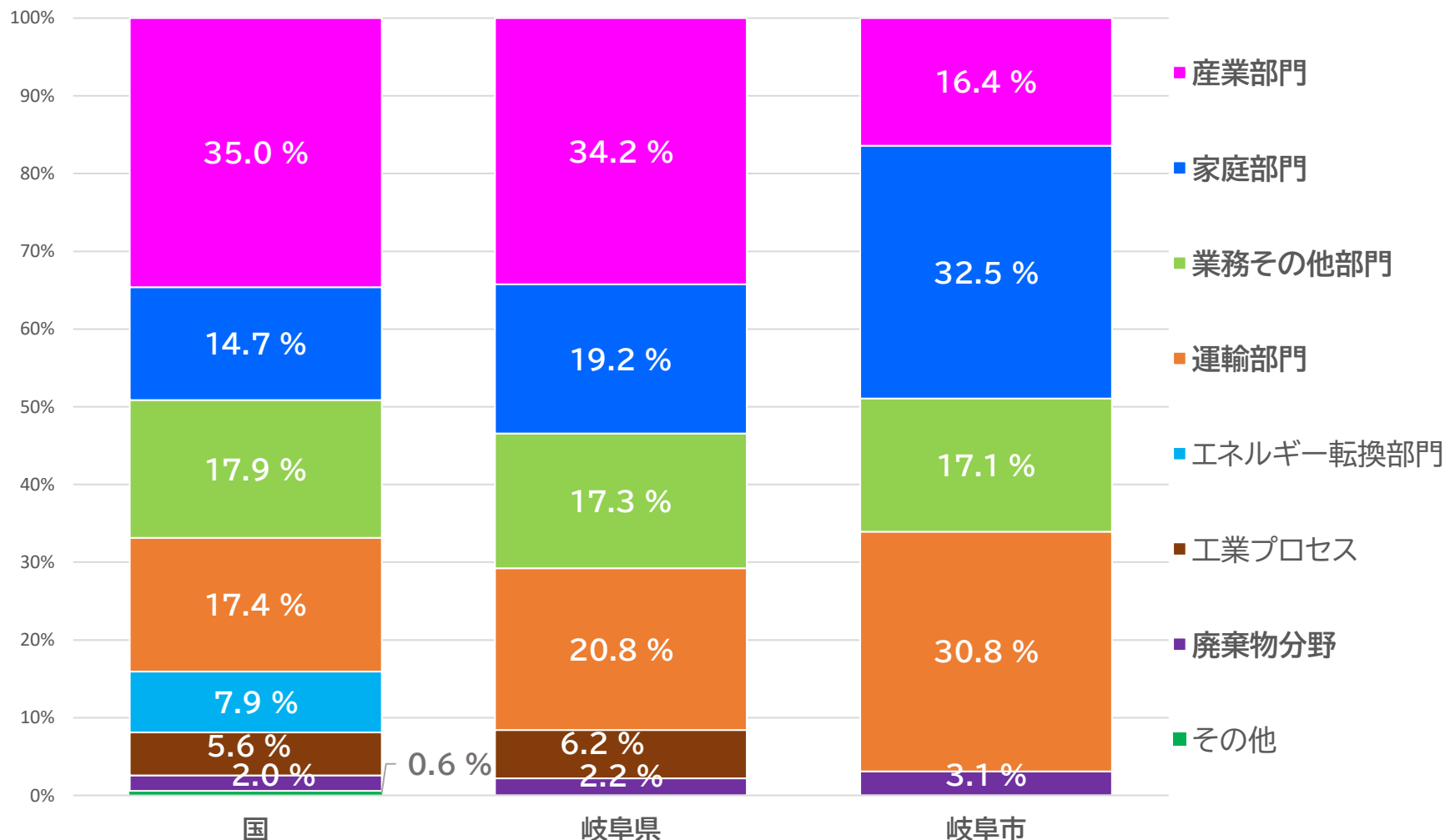
- 大規模な工場が少ないことから、産業部門からの排出量が少なく、一般家庭からの**民生家庭部門**が**55.2万t-CO₂**で全体の**32.5%**、次いで、自動車の使用による**運輸部門**が**52.3万t-CO₂**で**30.8%**を占める。



※グラフに示してある排出量等は、表示されていない小数点以下の数値処理の関係で表示された数値を合計した値と一致しないことがあります。

CO₂排出割合の比較

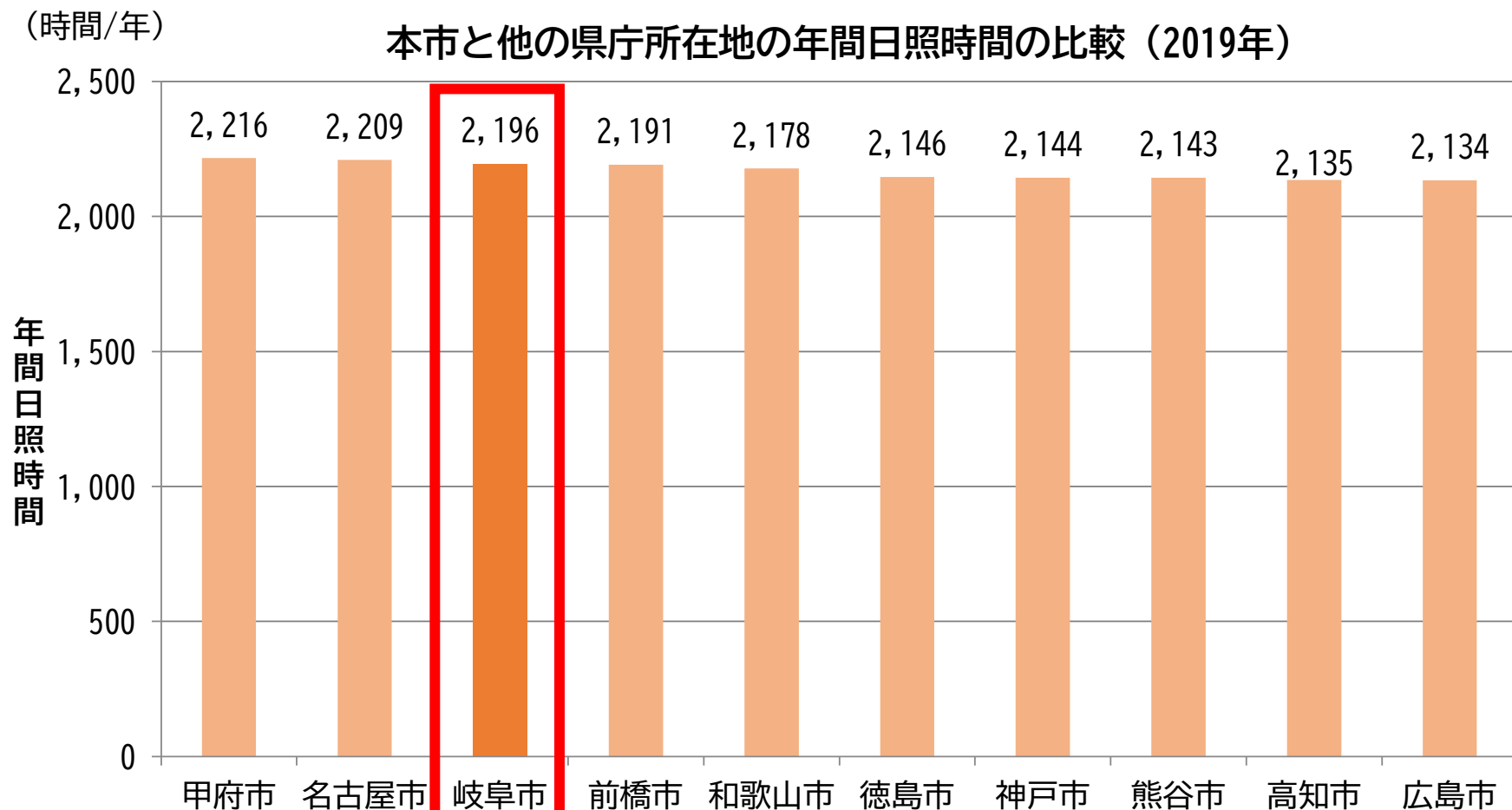
[2021年度]



※グラフに示してある排出量割合等は、表示されていない小数点以下の数値処理の関係で表示された数値を合計した値と一致しないことがあります。

(3) 本市の特性【日照】

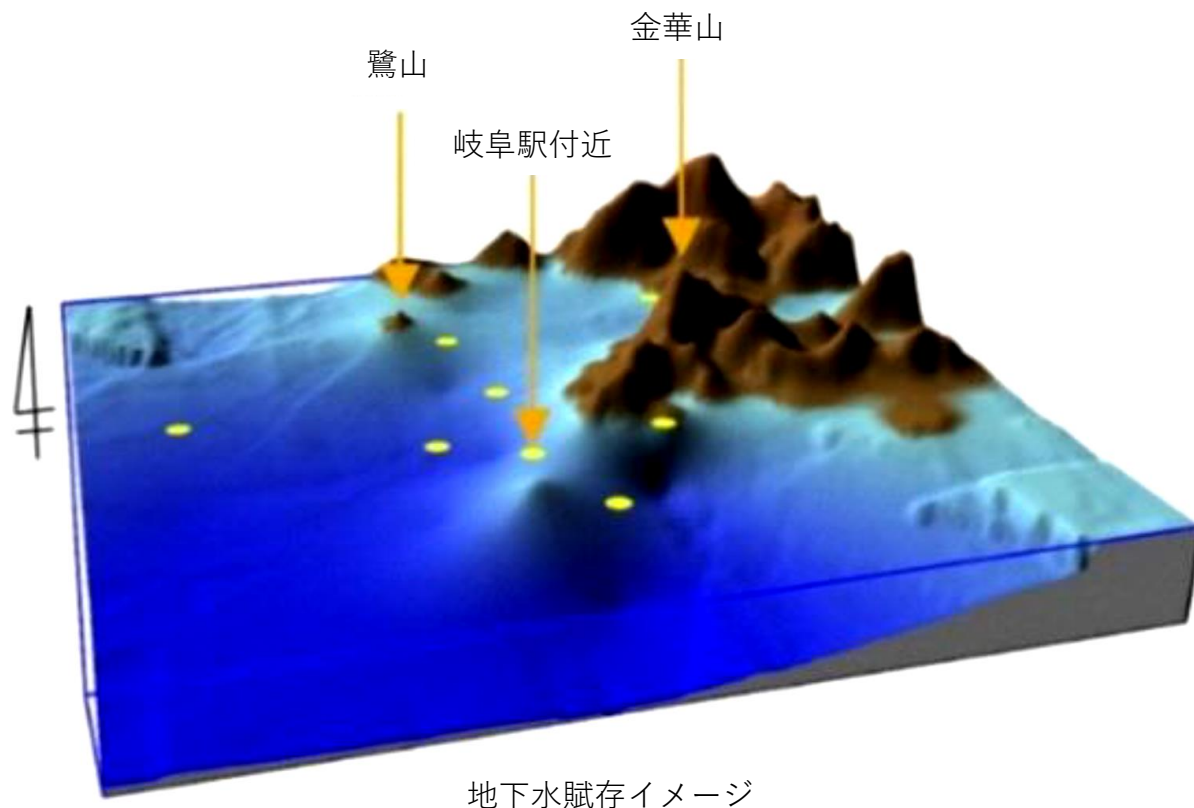
- 1年間の日照時間は、47都道府県庁所在地のうち3位の2,196時間(2019年)
- 太陽エネルギーを利用できる、恵まれた条件にある。



出典：統計でみる都道府県のすがた2021

(4) 本市の特性【地下水】

- 市街地は、長良川から1日に約130万～160万 m^3 /日もの地下水が蓄えられ、地下水の推定存在量は約14億トンと推計
- 市の8カ所のモニタリング地点では、年間降水量に関わらず、地下水位がどの施設でも、ほぼ一定で推移



2. 岐阜市 地球温暖化 対策 実行計画



岐阜市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

緩和

地球温暖化対策推進法（1998年策定）

地方公共団体実行計画
（区域施策編）

地方公共団体実行計画
（事務事業編）

適応

気候変動適応法（2018年策定）

地域気候変動適応計画

岐阜市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

緩和に向けたキーワード

脱炭素化の促進

再生可能エネルギーの利用促進

環境教育の推進



適応に向けたキーワード

様々な産業・経済活動の維持

自然災害の変化への対応

水や緑、生態系の保全

本計画の計画期間：2023年度から2050年度まで

2つの気候変動対策

「緩和」と「適応」

緩和とは？

原因を少なく

2つの気候変動対策

適応とは？

影響に備える



気候変動による人間社会や自然への影響を回避するためには、温室効果ガスの排出を削減し、気候変動を極力抑制すること（緩和）が重要です。

緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくこと（適応）が重要です。

施策体系

- 緩和と適応の施策を着実に進めていくため、
【緩和アクション】と【適応アクション】を施策体系とする。

緩和 アクション

緩和Ⅰ ライフスタイルの脱炭素化

緩和Ⅱ 脱炭素型まちづくりの推進

緩和Ⅲ 再生可能エネルギーの利用促進

緩和Ⅳ 施設の脱炭素化

緩和Ⅴ 環境教育の推進

適応 アクション

適応Ⅰ 農業・林業・水産業

適応Ⅱ 水環境・水資源

適応Ⅲ 自然生態系

適応Ⅳ 自然災害

適応Ⅴ 健康

適応Ⅵ 産業・経済活動

適応Ⅶ 市民生活・都市生活

削減目標の設定

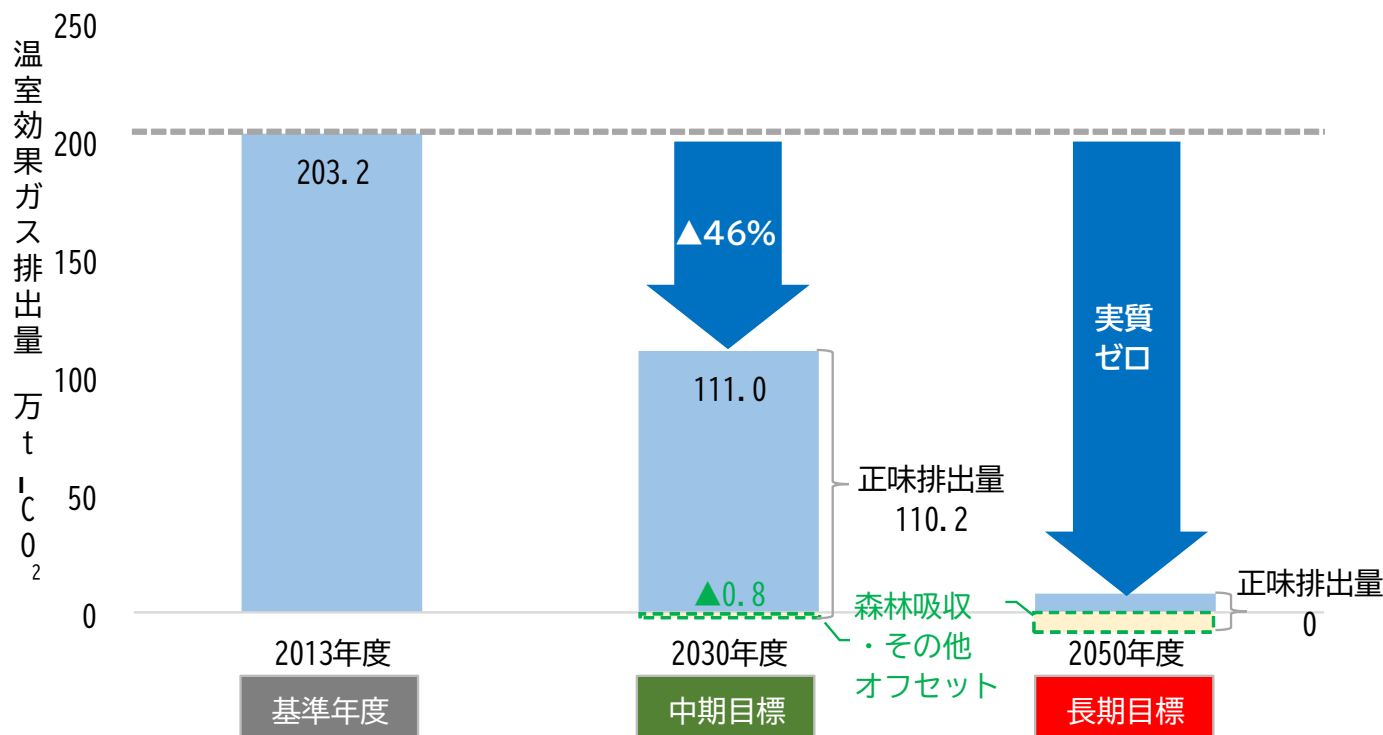
計画期間・目標年度

■中期目標

2030年度における温室効果ガス排出量を、**2013年度比で46%削減**

■長期目標

2050年度における温室効果ガス排出量を、**実質ゼロ**



岐阜市脱炭素社会推進シンポジウム

#岐阜市脱炭素社会推進シンポジウム



岐阜市ゼロカーボンシティ宣言

「ゼロカーボン」の「あゆみ」をめざして、みんなで「いま」をとりくむ。脱炭素社会を目指して。

岐阜市は、清流長良川や緑豊かな金華山など、美しい自然に恵まれたまちです。

私たちは、長きに亘り、この豊かな環境を享受し、共生しながら、生活や産業、文化、歴史を育んできました。

しかし、近年、地球温暖化に起因するといわれる気候変動により、世界的に深刻な自然災害が発生し、本市においても、気温の上昇や大雨の増加とともに、自然生態系や水資源、市民生活や産業など、様々な分野において、その影響が顕在化しています。

今を生きる私たち一人ひとりは、この地球温暖化の問題を共有し、そして、脱炭素の行動に真摯に取り組み、本市の恵み豊かな環境と安心できる生活を、未来を担う子ども達に継承していかなければなりません。

また、積極的に脱炭素の取り組みを進めることは、これまでの産業構造や経済社会の変革をもたらす、大きな成長に繋がるチャンスであり、

そこで、本市は、2050年までに温室効果ガスの排出量を実数ゼロにすることを目標とし、市民・事業者・行政の「オール岐阜」の力を結集し、「ゼロカーボンシティ」の実現にチャレンジすることをここに宣言します。

令和5年5月18日

岐阜市長 斎藤 正彦

岐阜市ゼロカーボンシティ宣言 R5.5.18

地域脱炭素とそれぞれの役割

地域脱炭素

2030年度46%削減、2050年度実質ゼロの実現には、地域・暮らしに密着した地方公共団体が主導する地域脱炭素の取り組みが重要



地域の特性に応じた脱炭素の取り組み（地域脱炭素）は、
様々な地域課題の解決にも貢献し、地方創生に資する。

■ 行政(岐阜市)の役割

市は、地球温暖化対策に向けた取り組みを総合的かつ計画的に推進していくための主導的な役割を担う

■ 市民の役割

地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を削減するために市民一人一人が身近なところから取り組む役割を担う

■ 事業者の役割

自らの事業活動と地球温暖化への影響を正しく理解し、行政や市民と連携しながら、地域社会の一員としての役割を担う

ぎふ減CO2(げんこつ)ポイント制度

- 「ライフスタイルの脱炭素化」を図る施策の1つで、市民の皆様の**省エネ行動を促進**
- 電気使用量の削減や省エネ製品の購入、公共交通機関の利用などCO₂削減に寄与する行動に**ポイント**を付与し、**抽選で啓発品を進呈**



啓発品の例



ステップ1
CO₂
減らす

ステップ2
ポイント
貯まる

ステップ3
啓発品
当たる

ぜひご参加ください！